

＜開会挨拶＞

小林洋一 日本トルクメニスタン経済委員会会長／
伊藤忠商事㈱代表取締役副社長執行役員
開会挨拶

ただいまから日本トルクメニスタン経済合同会議を開催いたします。本日議長を務めさせていただきます日本トルクメニスタン経済委員会会長の小林でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

尊敬するホジャムハメドフ副首相閣下、トルクメニスタン代表団の皆様、ご来賓・ご列席の皆様、日本トルクメニスタン経済委員会を代表致しまして開会のご挨拶をさせていただきます。

ご列席の皆様に対しまして、特にホジャムハメドフ副首相閣下を代表とするトルクメニスタン代表団の皆様には、今朝、早朝のフライトで日本に到着されたばかりのところを本日の会議にご出席を賜りましたこと、誠に喜ばしく心より御礼を申し上げたいと思います。

今回は日本とトルクメニスタンの双方より約 100 名の参加を得ました。これは日本とトルクメニスタンの間の経済関係の発展に大きな関心が寄せられていることを表すものと思っております。まず本日の会議では日本側から、僭越ながら私から日本、トルクメニスタン両国の経済に関する基調報告を申し上げ、そして第 1 セッションでは「石油ガス及び化学分野における日本とトルクメニスタンの協力の可能性」ということで双日株式会社そして三菱商事株式会社から、両社のトルクメニスタンにおけるご活動の状況についてご紹介を頂きます。第 2 セッションの「トルクメニスタン経済発展への日本からの貢献の可能性」におきましては、伊藤忠商事の方から、同社のトルクメニスタンにおける繊維分野のビジネスについての報告と、合わせて日本貿易振興機構（JETRO）から、同機構の中央アジアでの活動報告をしていただきます。

一方、トルクメニスタン側からは、ホジャムハメドフ副首相をはじめとする皆様より、トルクメニスタンの経済発展の模様、経済政策、産業等について、貴重なご報告をいただく予定にしております。

以上、これから 14 時 30 分までの間で、このような盛りだくさんのプログラムを予定しております。ご列席の皆様方のご協力を賜りつつ、本日の合同会議が実り多いものとなるよう、精一杯努めさせていただく所存ですので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。はなはだ簡単ながら、私からの開会の御挨拶とさせていただきます。

ホジャムハメドフ・トルクメニスタン日本経済委員会会長／トルクメニスタン副首相 開会挨拶

皆様、私の方からも第10回トルクメニスタン日本経済合同会議開催にあたりまして、皆様にご尽力をいただきましたことに心から感謝いたします。また、ただいま伺いましたように100人もの方々がこの会場にお集まり下さっているということをお大変うれしく思います。日本とトルクメニスタンの関係が非常に緊密になってきている、高い関心の表れであると思います。

両経済委員会はすでに長い年月を重ねてきており、1993年にそのことをお話しし、1994年に第1回の会合が開かれたと記憶しております。

1990年代の終わりには日本の企業がトルクメニスタンで大変活発に活動してくださり、またここ数年におきましても日本企業の進出は大変目覚ましいものがあります。これは金額的にも、優れた技術のトルクメニスタンへの導入という観点からも非常に目覚ましいものがあると感じております。

私どもの方からも活発な活動をしてまいりました。私たちの提案に応じてくれましたのが、国家コンツェルン「トルクメンガス」、そして「トルクメンヒミヤ」でございます。特に日本企業の皆様ともお付き合いの深い国営企業でございます。今日はこの2つの組織の代表の方々から報告をしてもらうことになっておりますし、また経済発展省の戦略計画・経済発展研究所所長からもトルクメニスタンの投資政策について皆様にお話をさせていただきます。ありがとうございました。



片瀬裕文 経済産業省大臣官房審議官(通商政策担当)
来賓挨拶

皆様、おはようございます。経済産業省を代表してご挨拶申し上げます。

まず、ホジャムハメドフ副首相閣下をはじめとするハイレベルのトルクメニスタン代表団の皆様のご訪日を心から歓迎いたします。また、本日、日本トルクメニスタン経済合同会議が開催されますことを、お喜び申し上げますとともに、ホスト側として開催に尽力されました小林会長をはじめとする日本側経済委員会の皆様方、それから ROTOBO の皆様方に心より敬意を表します。

今年は、日本とトルクメニスタンの外交関係樹立 20 周年であり、本合同会議も 10 回目を迎える記念すべき年であります。この 20 年間、日本とトルクメニスタンは、非常に良好な関係を構築してきました。経済関係につきましても、日本企業はこの会議に参加している商社・メーカーを中心に、石油化学プラント建設への参画、あるいは建設機械の供給などを通じてトルクメニスタンの経済発展と両国の経済協力関係の緊密化に貢献してきました。

トルクメニスタンの経済は、リーマンショック後も豊富な天然資源を背景に、中央アジアでも有数の経済成長を遂げています。両国が持つ経済的な特色やポテンシャルに鑑みれば、二国間の経済関係が発展する余地は大変大きいものと考えております。

今回の合同会議におきましては、投資環境整備ネットワークの設立について合意がされると承知しております。私どもと致しましても、ROTOBO の協力を得ましてこのネットワークを通じて情報提供に努めてまいりますので、貴国側からも具体的なプロジェクト等に関する情報を積極的に提供されるよう期待しております。

日本企業の有する高度な技術と、貴国の天然資源、この双方が活用されることによりまして日本とトルクメニスタンはさらに win-win の関係を強化させることができると確信しております。経済産業省といたしましても、外務省と協力しつつ、また貴国政府と緊密に連携しつつ、このような民間の努力に対して最大限の支援をしてみたいと考えています。

今回のこの合同会議がこれからの両国関係のさらなる 10 年、あるいは 20 年にむけての経済関係深化の礎となることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

**上月豊久 中央アジア担当日本外務省特別代表／外務省欧州局審議官
来賓挨拶**

ホジャムハメドフ・トルクメニスタン日本経済委員会会長、小林・日本トルクメニスタン経済委員会会長、ご列席の皆様。トルクメニスタン代表団の皆様を心より歓迎すると共に、本日、第10回日本トルクメニスタン経済合同会議が開催されますことをお慶び申し上げます。

トルクメニスタンは我が国にとって大変重要なパートナーであると思っております。近年トルクメニスタンはエネルギー安全保障の観点から重要な役割を果たしており国際社会から高い関心を集めています。

トルクメニスタンはアフガニスタンと国境を接し、地域のテロ・麻薬の拡散防止に大きな役割を果たしています。またトルクメニスタンはアフガニスタンの経済復興に重要な寄与をしています。このようにトルクメニスタンは重要な役割を果たしております。

2009年12月にさかのぼりますが、ベルディムハメドフ大統領の訪日は、両国の関係強化への大きな弾みとなりました。私自身、本年5月にアシガバードを訪問しましたが、我が国とトルクメニスタンの間には互恵的な協力関係を築いていく大きな可能性が存在することを確信いたしました。

本日の経済合同会議は、外交関係樹立20周年の年に開催されることになり、まさにこうした互恵的な協力関係の構築に大きく貢献するものと考えます。本日の会合での建設的な議論を通じて日本・トルクメニスタン経済関係がさらに促進されることを確信しております。

日本外務省としましても、また現地の大使館としましても、日本とトルクメニスタンの経済関係の強化、特に日本企業のトルクメニスタンにおける円滑な活動のために努力を惜しまない考えです。ホジャムハメドフ会長におかれましても、トルクメニスタンにおけるビジネス環境の一層の整備に向けた取り組みを引き続き宜しくお願いしたいと思います。

本年11月には、東京において、「中央アジア+日本」対話・第4回外相会合の開催を予定しております。これは我が国が2004年に立ち上げ、対話を積みかさねてきたものです。我が国が触媒となって中央アジア地域内での協力をすすめていこうとする取り組みです。この会合では5つのテーマを議論しております。第1は環境・省エネ・再生可能エネルギーについてです。第2に、MDGs、ミレニアム開発目標の達成と経済格差の是正についてです。第3にアフガニスタンの安定に向けた協力です。第4に防災協力です。第5に貿易投資分野での協力であります。これらの5分野はトルクメニスタンにとっても非常に重要な問題と考えております。我が国としましてもトルクメニスタンの積極的な参加を期待しております。

最後に、本日の経済合同会議において、活発な議論が行われるとともに、多くの具体的成果が得られることを期待し、私の挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

<基調報告>

小林会長 基調報告 「日本・トルクメニスタン経済関係の現状と今後の展望」

◆冒頭

尊敬するホジャムハメドフ副首相・トルクメニスタン日本経済委員会会長閣下ならびにご列席の皆様。改めまして日本側代表団を代表してご報告の機会を頂きましたこと大変光栄に存じます。

2009年12月にベルディムハメドフ大統領閣下の初来日という記念すべき機会に、東京で第8回日本トルクメニスタン経済合同会議が開催され、翌2010年11月には第9回合同会議がアシガバードで開催されました。先ほどホジャムハメドフ閣下からもお話がありましたように、1994年に両国でそれぞれ設立された経済委員会の合同会議は、本日の会議を持ちまして第10回目を迎えますが、このような記念すべき合同会議をここ東京で開催できますこと大変喜ばしく、この開催にご尽力戴きましたホジャムハメドフ副首相閣下はじめ関係者の方々に心から感謝申し上げます。

本日の会議には日本側から日本トルクメニスタン経済委員会のメンバーをはじめ、貴国との経済交流に関心のある商社・メーカー・銀行等の民間企業の代表、また日本政府より外務省、経済産業省代表の他、日本貿易振興機構(JETRO)、国際協力銀行(JBIC)、日本国際協力機構(JICA)、日本貿易保険(NEXI)の代表等、総勢約90名もの方々に参加をいただいております。

今回も日本側参加者の数がこれほど多くなりましたことは、2009年の貴国大統領の訪日以降、官民挙げて両国の経済関係の発展に更なる関心が高まったことの表れと言えます。

◆トルクメニスタン経済

さて貴国の経済に関しては、後ほどホジャムハメドフ副首相をはじめとするトルクメニスタン側のご報告で詳しくご説明いただけたと思いますが、2009年から2010年にかけて1桁台にとどまっていたGDP成長率が、2011年には対前年比14.7%増と2桁に回復、また2012年上半期も11.1%増と著しい成長を遂げられていることは、誠に喜ばしい限りです。

貴国の経済成長を支える天然ガスですが、2011年10月には主力ガス田である南ヨロタン・ガス鉱床の埋蔵量が大幅に増えることがわかり、2012年のBP統計で確認埋蔵量が世界第4位と発表されております。天然ガスの輸出については、これまでロシアとイラン向けがほとんどでしたが、2009年12月にはトルクメニスタンと中国を結ぶパイプラインも開通しておりますし、トルクメニスタンからアフガニスタン、パキスタン、インドを結ぶTAPIガスパイプラインプロジェクトや更には西側向けにはトルクメニスタンからコーカサス、トルコ、欧州へとつながるナブッコ・パイプラインプロジェクトなども計画されております。今後、輸送路・販売先の多角化によりトルクメニスタン経済が更に成長し、益々繁栄されると期待しております。

◆日本とトルクメニスタンの貿易

次に日本とトルクメニスタンの貿易動向に目を向けますと両国間の2011年の貿易総額は、前年の約10倍と大きく成長しております。特に顕著でありましたのは日本の輸出で、2,400万ドルから2億6,800万ドルと10倍以上、また輸入に関しましても約20万ドルから約68万ドルと、こ

ちらも3倍となっております。日本からトルクメニスタンへの輸出品目では、ポンプの他、建設機械、電気機器などの一般機械があがっております。日本の技術製品が高く評価され、輸出に反映されておりますが、石油ガス・化学、エネルギー輸送、繊維、環境、インフラ整備などトルクメニスタンの経済発展に貢献しうる分野で、今後さらに日本の技術へのニーズが高まるものと思われます。数年前から日本の駐在員事務所が増設され、両国間で人の流れと情報を共有する機会が増えております。このような経済・ビジネス交流の活性化が、貿易の拡大、さらには今後の投資の機会に結びつくものと思われます。

◆トルクメニスタンへの要望

日本企業が今後ビジネスや投資を円滑に進めていくためには、貿易・投資に関する法律が整備されていること、正確で透明性のある情報が共有されること、また海外の投資家およびその財産が保護されること、許認可要件が明確で簡素化されていること、金融や銀行システムが安定していることが必要不可欠です。また、人や物の円滑な移動のための物流網・交通網などのインフラ整備も必要です。特に外国人へのビザ発給に関しては、迅速な招待状の発給や長期間の期限を付与することが、貿易・投資に関わる外国人の活動を活性化させると思います。ビザに関して、私見ではありますが、貴国におかれましては是非とも日本での大使館の設立をご検討いただければと思います。

◆トルクメニスタンについての情報開示

また、前回 2010 年の合同会議におけるホジャムハメドフ副首相のご発言の中で、日本トルクメニスタン経済委員会の事務局でもあります ROTOBO と貴国の戦略計画・経済発展研究所の協力について日本側があまり進んでいないというご指摘を受けました。これに関しましては、お約束どおり 2011 年 11 月に ROTOBO から専門家を派遣いたしまして、戦略計画・経済発展研究所と協議を開始しております。具体的には、両国企業に対する情報提供および企業間交流の強化をめざす「日本トルクメニスタン投資環境整備ネットワーク」の設立について合意しております。今後、設立に向けた具体的な活動内容について協議を進めていくことになるかと伺っております。私ども民間企業が貴国と様々なプロジェクトや投資を実施する上で、いろいろなファイナンススキームや貿易保険スキームを活用する際、貴国の経済政策、経済状況に関する情報が不可欠でございます。引き続きこれらの情報の開示、提供をよろしくお願いいたします。

◆結び

ホジャムハメドフ副首相閣下はじめトルクメニスタン側関係者の皆様には、貴国における日本企業の活動円滑化のためのいっそうのご理解とご協力を賜りたく、お願いする次第です。日本側といたしましては、引き続き、貴国の主力産業である石油・ガス分野での協力をさらに強化していきたいと思っております。また、貴国が天然ガス依存からの脱却、経済多角化を目指して策定し、実施されております「社会・経済発展国家プログラム」の中で重点分野となっている、発電、建材製造、観光といった新たな分野においても、積極的に努力していきたいと考えます。

最後に、本日の合同会議が実り多いものとなることを祈念して、私の挨拶と基調報告を終えさせていただきます。ご清聴有難うございました。

ホジャムハメドフ会長 基調報告

「トルクメニスタンの社会経済の現状と見通し、日本とトルクメニスタンの経済関係の展望」

◆冒頭

日本トルクメニスタン委員会会長小林様、尊敬する、日本トルクメニスタン経済合同会議にご列席頂きました皆様！

まず始めに尊敬する偉大なるベルディムハメドフ大統領閣下、そしてトルクメニスタン政府を代表致しまして、日本トルクメニスタン経済合同会議のご列席の皆様に対し、心からご挨拶を申し上げるとともに、今日のこの重要な会議が沢山の結果をもたらすことを祈念させて頂きたいと思います。

ベルディムハメドフ大統領閣下は、この日本トルクメニスタン経済合同会議の活動に対して大きな期待を抱き、多くの結果がもたらされることを希望しておられます。

私もまた、今回の第10回経済合同会議が、両国の企業の間の協力と統合の発展に大きなインパクトを与えるものとなることを確信しております。そしてトルクメニスタンと日本の間の協力関係が、次の戦略的なステージに向かうことを心から祈願するものです。

◆トルクメニスタン経済の現状と発展プログラム

では、私の後に戦略計画・経済発展研究所所長から細かく話がございますけれども、私もまた、この基調報告の中でごく手短かにトルクメニスタンの経済の状況についてお話申し上げたいと思います。

皆様もご承知の通り、尊敬するベルディムハメドフ大統領の下、我が国では社会的発展を目指す非常に大規模な取り組みが行われております。それは非常に多面的で継続的、かつ規模そして深さから見ても非常に大きな意味合いを持っておりまして、私達の社会が発展するための重要な基盤となっております。

トルクメニスタンの経済政策は、大統領閣下により承認された社会経済発展国家プログラムを基本として実施されております。現在、「2020年までの経済・政治・文化発展戦略」国家プログラムが、成功裏に実施されています。また今月、「トルクメニスタン諸州の2012年～2016年社会経済発展プログラム」が大統領により承認されました。これらのプログラムが基本となり、国民生活、特に急速に発展している国民の需要に応え、また我が国と世界の国々との関係を深化させ、経済・政治・文化の面でも発展を遂げるための様々な作業が行われているのです。

我が国が独立してから、様々な分野での改革が行われてまいりました。この改革により、経済の安定的な成長が保障されることになりました。国民の福祉向上への努力が着々と積み重ねられ、経済モデルの構築、生産の効率化と近代化、そして我が国の競争力の向上と安全保障の強化が図られているのです。

◆日本との協力深化の方向性

トルクメニスタン経済の成長の基となっているのは、大統領が進めている全ての分野をバランス良く効率的に発展させるための政策です。国民の生産活動のなかでも、重要な意味合いを持っているのは工業です。我が国のポテンシャルが拡大、向上していくために生産規模の拡大が非常

に重要になって参ります。そしてまさにこの分野において、日本とトルクメニスタンの企業との協力関係の深化が非常に大きな役割を担っていくものと確信しております。具体的に申し上げますと、石油・ガス分野、特に精製・加工分野、またエネルギー、繊維産業、農産品加工、それから運輸、通信などの分野です。これらの分野では現在、ハイテクの最新設備が導入され、我が国の政策の重要課題である生産の近代化が実現されつつあります。

これまで、経済合同会議では幾度も議定書が署名されてきました。その内容を分析してみますと、実現していれば、日本とトルクメニスタンの間の貿易は年々拡大していったであろうことが予測されます。しかし実際には、拡大しているのは貿易に占める日本からの輸出のシェアです。日本はハイテク大国ですから、これは当然といえば当然とすることができますが、逆の、日本に対するトルクメニスタン製品の輸出という非常に重要なテーマについて、検討を深める必要があると考えます。

具体的品目としては、繊維やカーペット、原料品などがあげられると思います。私は、この問題を非常に重要なものと認識しておりまして、双方の努力を傾注していく必要があると考えております。これまでは、残念ながらトルクメニスタン側からそれに向けた努力がなされていなかったという事情もあったことでしょう。しかし、先程申し上げました繊維製品、カーペット、そして一部の原料品については、真剣に検討し、様々な努力を行うことによって、日本への輸出の展望が拓け、輸出総額の拡大に結びつけることが出来るものと確信しております。

現在、トルクメニスタン国内の繊維産業では、日本製の繊維機械を非常に広く使用しております。しかし、未だサービスセンターが開設されていないため、使用するにあたり非常に大きな不便が生じております。一方でヨーロッパの繊維機械メーカーは、既にサービスセンターを開設し、非常に活発にサービス活動を展開しています。是非、日本の繊維機械のメーカーにも、出来るかぎり早い時期にサービスセンターを開設し、協力拡大に結びつけていくことをお願いしたいと思っております。

また、小林会長の基調報告にもありましたように、2011年の末のROTOBOのミッション訪問の際には、トルクメニスタン商工会議所や戦略計画・経済発展研究所との間で、日本とトルクメニスタンとの間の投資環境に関するプログラムを準備することを含め、様々な交渉が行われました。今後、どのような課題にプライオリティをもって解決していくかなど、具体的な協議を繰り広げていくことが非常に重要だと考えております。

銀行、金融機関との間でも有益な作業が行われております。日本側から様々な形での資金供与などが行われており、金融分野の今後のポテンシャルを考えますと、まさにトルクメニスタンに日本の銀行の支店を開設していただくタイミングが来たのではないかと考えております。

皆様も御存知のように、マリィで化学肥料工場プロジェクトが実施されており、日本の金融機関によるクレジットラインが開設されます。このような具体的な進展が見られる中で、是非、日本の銀行のトルクメニスタンへの進出、支店開設をご検討いただきたいものです。

◆原料加工分野への日本企業の進出

ご列席の皆様、トルクメニスタンには、鉱物、炭化水素資源等、非常に豊かな天然資源がございます。ヨウ素等、無機塩類については、世界でも非常に重要な生産国となっておりますし、天然ガスについては埋蔵量世界第4位です。先程、小林会長の方からBPの話が出ましたが、6月

16日、アシガバードでBPの2011年リポート・ミーティングが行われ、トルクメニスタンの天然ガスの埋蔵量の規模について、改めて確認がなされたところです。

石油・ガス産業分野は、トルクメニスタン工業の核となるものです。この分野が、その他の関連分野、また経済全体、科学・イノベーションセクターに常に大きな刺激を与え、牽引しているのです。現在、石油・ガス産業は、非常に安定した発展を遂げており、鉱工業生産のなかで大きなシェアを占め、輸出製品としても国際市場において非常に安定した需要があります。

ガス化学工業発展プログラムが作成されており、次に挙げます様々な分野での生産規模の拡大を謳っております。それは、1) 尿素・リン酸・カリ等の農業用肥料生産、2) ヨウ素・臭素及びそれらの化合物、またソーダ灰、硫酸ナトリウム等の生産、3) 洗剤その他の家庭用化学品の生産、また4) ゴム製品、さらには5) ポリエチレン、ポリプロピレン、PVC（ポリ塩化ビニール）、ホルムアルデヒド、ホルムアルデヒド樹脂、その他の建材および塗料の生産、また6) 天然ガスを原料とするメタノールやモーター燃料の生産などです。

この点について若干、ご説明申し上げたいと思います。昨年、我が国の大統領がある会議に出席し、トルクメニスタンを工業大国に変身させるというアイディアについてスピーチをなさいました。皆様も御存知のように我が国は、資源国ということで製造業の発展についてこれまであまり力が入れられておりませんでした。大統領は私共が提出した資源加工分野の発展促進を目指すプログラムを承認してくださいました。そしてまさにこのプログラムの枠内の多くのプロジェクトに、日本の様々な企業が参加しています。

しかし我々の希望は、日本企業の参入がさらにシステム化され、複合的なものとなることについて、皆様が真剣に検討し、我々とともに仕事を進めてくださることなのです。この問題については、複合的なアプローチの必要があります。プラントの建設からロジスティック、マーケティングに至るまで、ひとつのコンプレックスとしてのアプローチということです。日本企業がこのようなプロジェクト参入の仕方をするることにより、我が国の発展へ大きな貢献をしていただけていると考えております。

まず初めにどのような製品が世界市場で求められ、受け入れられるかという調査・研究を行い、続いて実際に工場を建設し、そして工場で生産された製品が輸出されます。その輸出収入をトルクメニスタンへの投資資金に充てていけばよいでしょう。

これに関連し、私にはひとつ提案がございます。是非この問題について、トルクメニスタンの製造分野への参入の希望をもつ日本企業の皆様に参加していただき、ワーキング・グループを設立したい。先程から申し上げているように、検討するのは複合的なアプローチ、すなわち新しいプロジェクトによる製品の将来性の調査から始まり、工場の建設、ロジスティック、マーケティングなど全ての面からアプローチを行なっていくための作業グループということです。

◆日本製パイプへの関心

また、異なる話題ですが、我が国はガスの供給に用いる特殊鋼管について非常に大きな関心をもっております。この点につきましては、小林会長のご好意により、今回のミッションのうち3名が実際のメーカーへの視察に参加させていただくことができました。今後もこのようなテクノロジーやスタンダードの導入などに結びついていくような協力を期待している次第です。

他にも多くの日本企業が、トルクメニスタンで様々な活動を行っております。なかでも多くの

企業が我が国に対する製品の納入に携わっているわけですが、クロム加工されたパイプについて私共は非常に大きな関心があり、住友に対して、メーカーから直接購入をお願いできないかと提案致しました。しかし何らかの事情があったのか、住友からは他の会社を経由して納入するよう回答がまいりました。もし直接メーカーから購入できるなら前金を25%支払う、またL/Cを開設するなど、我々としては最善を尽くした提案をしたにも関わらず、要求は今のところ通っておりません。是非住友の皆様には、この問題について前向きなご検討を引き続きお願いしたいと思っております。

◆文化・教育、スポーツ・観光分野における協力

経済合同会議は、両国の関係強化を非常に多様な局面から図っていく、中心的存在と理解しております。したがって、経済以外の分野、例えば教育、文化、ツーリズム、スポーツ、科学などについても関係強化イベントを行なっていくことが望まれます。しかし、残念ながら今のところ、そういう方面での作業はなされておられません。それぞれの国民のもつ文化をお互いに知ることにより、相互理解を深めることができます。そういう意味で、この合同委会議の役割は、まだまだ拡大の余地があると思います。

文化イベントの開催も非常に期待されるものです。これまでも、例えば映画上映会やセミナー等、小規模なものは行われてきました。しかしもっと大規模な、例えばトルクメニスタンにおける「ジャパン・カルチャーデー」、もしくは日本での「トルクメニスタン・カルチャーデー」の開催等も、ひとつの大きな文化イベントとして可能性を持つものだと考えております。

教育も非常に大きな可能性を秘めた分野です。我々是可以なれば、企業の皆様のご協力を得て何らかの形の協定を結び、一定人数のトルクメニスタンの技術者・学生の受入についてご支援いただく、もしくはその関連行事にご協力いただくことは大きな可能性があると考えております。日本国民の教育レベルは、非常に高いと理解しております。日本の高等教育機関におけるトルクメニスタンの若い世代の研修・留学等、色々な可能性について、国のレベルで探っていくことができればと考えております。

スポーツ・観光分野でも日本に学ぶことは数多くあります。この機会を利用して是非お願い致したいのは、日本の関心のある組織に、スポーツ・観光分野の発展プログラムの作成について積極的にご参加いただきたい。来年度（の合同会議）では、是非それを実現できることを希望しております。

さらに2017年には、トルクメニスタンで大規模なスポーツイベントである「アジア競技大会」が開催される予定です。全てルーフ付きのスタジアム内での開催ということになるわけですが、これについてもプログラム作成、スポーツマンの養成、それからコーチの育成等についても、皆様からの協力に大きな期待を寄せていることを申し上げます。

◆結び～戦略的パートナーシップ構築への期待

経済委員会の事務局に対しては、私が今申し上げたような内容での提案を更に検討し、色々なプログラムを作成していただきたい。そしてそれをプロポーザルとしてまとめ、トルクメニスタンと日本、双方の委員会議長に提出していただき、プライオリティや可能性についての調査を行うことにより、委員会の活動が一段レベルアップするための基盤が出来ると考えます。

最後に申し上げたいことは、これは以前にも申し上げたことなのですが、我々の大統領閣下はトルクメニスタン日本経済委員会に対し、非常な大きな期待を抱き、高い評価をなさっているということです。非常に大きな関心をもっておられます。そして 2012 年の末には、再度の訪日を計画しておられるのです。

日本企業の皆様は、多くの関心をもち、トルクメニスタンでビジネスを進めるためにどんどん参入してくださっています。ファイナンス、銀行分野の協力も進んでおります。そして大統領閣下は、今こそトルクメニスタンと日本の関係を一段レベルアップし、戦略的レベルに引き上げていくことに大きな期待を抱いておられるのです。そしてこの大きな課題において、我々トルクメニスタン日本経済委員会、皆様との合同会議の役割は非常に大きなもので、非常に大きな責任を担うことになるものと考えます。

ご清聴ありがとうございました。大きく時間を超えてしまい、申し訳ございませんでした。ご了承願いたいと思います。

【小林会長コメント】

ホジャムハメドフ副首相閣下ありがとうございました。この度の代表団は昨日アシハバートを発ち、今朝、成田に到着され、ほとんどの方がそのまま会議に参加されております。極めてタイトなスケジュールですので、些かバタバタしておりますけれども、ご了承願いたいと思います。

第 1 セッションに入る前にホジャムハメドフ副首相閣下のコメントについて、私の方で幾つかコメントをお返ししたいと思います。

まず第 1 点目、日本とトルクメニスタンの貿易収支について申し上げます。日本からの輸出が多く、輸入が少ないとのご指摘について、輸入可能な品目には、繊維、カーペット、原料の他、具体的にどのようなものがあるのか教えていただきたいと思います。

2 点目の繊維機械のサービスセンターの件については、これはそもそもこの企業が輸出されたものか不明ながら、経済委員会事務局である ROTOBO を通じてフォローアップしたいと思います。

3 点目、投資環境の整備については、当然、これは日本側としても喫緊の課題と認識しておりますので、私どもとしても政府の然るべき部局とご相談のうえ、協力を進めていきたいと考えます。

4 点目、金融機関・銀行の支店開設について。これは、(同分野の会員がいない) 私共にはどうしようもございませんので、ROTOBO あるいは経済委員会を通じて、銀行にそういうご意向があることをお伝えします。

次にプロジェクト単発ではなく、コンプレックスでのアプローチを、とおっしゃっておられました。例えばプラント建設だけではなく、マーケティングまで検討するワーキング・グループを作りたいというご要望につきましては、もう少し具体的に事務局同士で検討を進めさせていただきたいと思います。

住友のパイプの件につきましては、個別の件でございますのでコメントは差し控えさせていただきます。

また、経済委員会の話題として、今回は国を代表して文化の交流、教育、スポーツ、観光までお話いただきました。副首相閣下は今日の午後、玄葉外務大臣、枝野経済産業大臣にお会いになると伺っております。その際、これらの分野の交流のご希望については是非お話頂いては、と思いますし、また本日は、経済産業省と外務省の代表の方が来ておられますので、今後前向きに、交流という観点でご相談させていただきたいと思います。

最後に、ベルディムハメドフ大統領閣下が今年末に訪日なさるかもしれないということですが、非常に良いお話であります。もしそれが実現しましたら、私共経済委員会として心より歓迎致したいと思います。

＜第 1 セッション＞

中原秀人 日本トルクメニスタン経済委員会副会長／
三菱商事㈱代表取締役副社長執行役員
報告「トルクメニスタンにおける三菱商事の活動」

ホジャムハメドフ副首相、並びに皆様、日本へのご訪問感謝申し上げます。この会議に出席するに当たりまして、私も事務局より 4 ページのスピーチ原稿をもらっていますが、ただいまの副首相閣下のお話でそのほとんどがカバーされておりまして、私がこのまま読んでも繰り返すことだけになりますので一部、ポイントのみお話し申し上げます。

今、副首相閣下からお話がありました通り、私ども三菱商事もほかの日本企業と同じように最初はまず石油ガスのための日本の高級鋼管の販売ということからトルクメニスタンとの関係が始まっております。1997 年に JBIC の輸出金融を利用して繊維プラント建設プロジェクトが実現いたしました。さらに 2002 年、2003 年と繊維プラントやセメントプラントの建設プロジェクトにも携わってまいりました。GDP 成長率年率 2 桁のマーケットといたしまして、貴国のマーケット拡大に応じて、自動車やバス・トラック用のタイヤ、エレベーターの販売といった貿易面での活動に従事してまいりました。

昨年、私どももアシガバードに駐在事務所を設立いたしました。その所長が、今回皆様と一緒に日本に出張してきております。このように私どもは貴国の将来の発展というものにつきまして強い信頼をおいております。しかしながら、先ほど小林会長からもご指摘がありました通り、また副首相閣下からご指摘がありました通り、日本とトルクメニスタンの間の貿易は国の実力からすると非常にまだ少ないと思っております。まだまだ両国の貿易は発展途上であると思っております。私どもは、この駐在事務所の活動を通じて、ますます両国の投資ならびに貿易の拡大に貢献していきたいと思っております。その中で、先ほど小林会長からもご指摘がございましたが、人の往来がこの関係の強化に非常に重要であると思えます。ビザの発給の時間短縮ならびにその適用の拡大など、もう少しビザが自由に手に入るような改善をお願いしたいと思うところであります。

最後に、副首相閣下にご指摘されました複合的な化学プラントの建設という事業でございますが、アンモニア並びに尿素の製造に関するプラントの建設につきまして、トルクメンヒミヤをはじめとする関係当局との話し合いを進めております。副首相閣下にご指摘の通り、このプロジェクトは非常に野心的で、規模も大きく、また全体の流れが非常に多岐にわたる大プロジェクトでございます。慎重かつ多面的な検討が必要とされるアクションだと認識しております。このプロジェクトが両国の協力によりまして実現に向かい、世界でも有数な一大肥料出荷基地につながっていくことを期待しております。

私の話は今の副首相閣下のお話の一部を繰り返しただけにすぎません。ただ副首相閣下のお話では現在のトルクメニスタンの置かれている状況、国家のまたは政府としての方向性を非常にはっきりと示していただきました。ありがとうございました。

Mitsubishi Corporation in Turkmenistan

~Plant Business~

Mitsubishi Corporation



① Turkmenbashi Textile Complex

Contract Year: 1997
Amount: JPY19.1 billion

② Altyn-Asyr Textile Plant (Own financing project)

Finance Date: 2003
Amount: US\$39 million

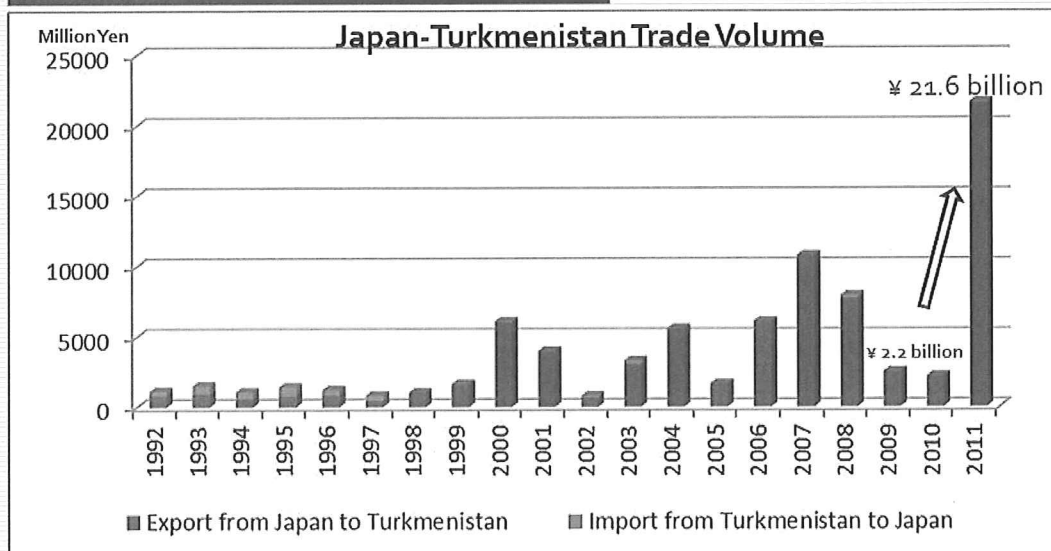
③ Kelete Cement Plant

Contract Year: 2002
Amount: US\$28 million

Copyright (C) 2012 Mitsubishi Corporation. All rights reserved.

1

Japan-Turkmenistan Trade Volume



Data: Ministry of Finance, Japan

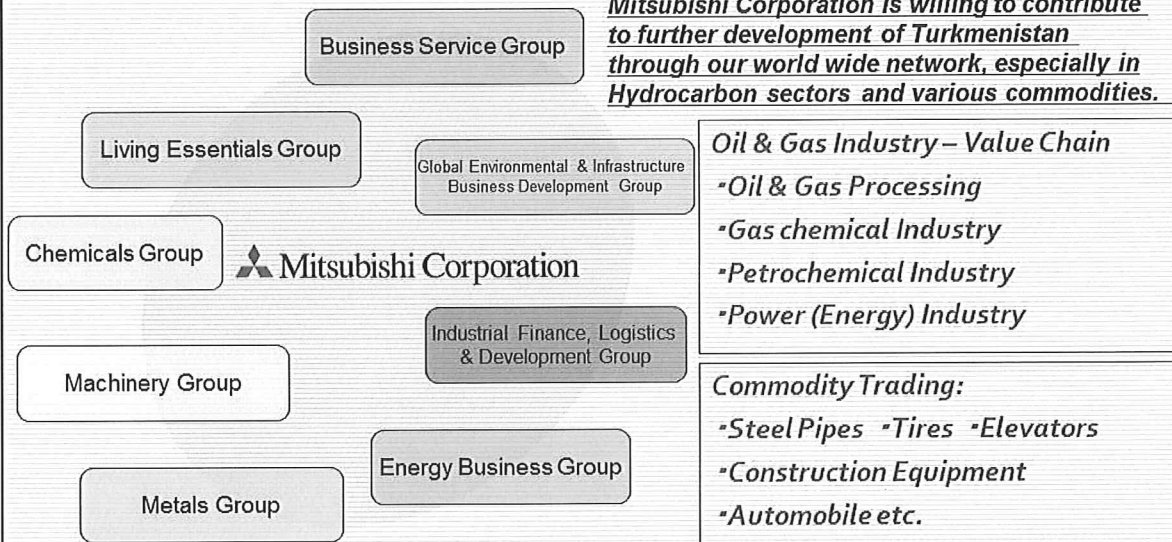
Copyright (C) 2012 Mitsubishi Corporation. All rights reserved.

2

Mitsubishi Corporation in Turkmenistan Now and the Future



Mitsubishi Corporation



Copyright (C) 2012 Mitsubishi Corporation. All rights reserved.

3

Mitsubishi Corporation in Turkmenistan Now and the Future



Mitsubishi Corporation



Garabogaz Ammonia & Urea Plant Project

~Contributions~

- Realizing large scale fertilizer project through Infrastructure development
- Enhancement of localization and socio-economics of Garabogaz area
- Materialization of value added gas export project (Product marketing & logistics, Structured finance & Engineering, Procurement and Construction)

Copyright (C) 2012 Mitsubishi Corporation. All rights reserved.

4

Mitsubishi Corporation in Turkmenistan Now and the Future



 **Mitsubishi Corporation**

Ashgabat Liaison Office

***Address: 304, Yimpas Business
Center, 54 Turkmenbasy
Ave., 744000 Ashgabat***

Tel: +993-12-45-48-85

Fax: +993-12-45-36-09

マメドフ・国家コンツェルン「トルクメンガス」総裁 報告「トルクメニスタンのガス産業」

尊敬するご列席の皆様、親愛なる日本のご友人の皆様、そしてご同僚の皆様！

ガス産業はトルクメニスタンの経済にとって優先分野でございます。従って、その状況が国内全体の経済情勢を左右いたします。ベルディムハメドフ大統領はガス部門の総合的な技術刷新を最重視しておりまして、そのために国内の企業に対して巨額の投資を行いながら多大な支援をしております。

トルクメニスタンのガス部門のダイナミックな発展、そしてグローバルなエネルギー市場への統合のためには国際協力の拡大が不可欠でございます。またこの分野におきましては極めて幅広いパートナーシップが可能だと考えております。投資誘致、新しいガス田の整備、生産の近代化、最新技術の導入、国内のガス部門の専門家の育成などがあげられます。

石油価格の高騰を背景に、炭化水素資源の基盤の多様化というのが焦眉の課題でございます。近い将来、経済的、かつ有益で、また環境保全の観点からも魅力がある分野として考えられるのが、合成エンジンオイル、ポリマー、潤滑油、その他のガス化学製品の生産に天然ガスを利用していくことでございます。

日本のイノベーション技術をトルクメニスタンの天然ガスの総合的な加工に活用することを目的と致しまして、私どもトルクメンガスは日本の企業、日揮および伊藤忠と2つのMOUを調印いたしました。このMOUの1つは2009年12月に調印されたものですが、天然ガスの効果的利用に関するマスタープランの作成に関するものでございました。もう1つは2011年2月、バガジンスコエ・ガス田とナイブ・ケルピチュリンスコエ・ガス田群のエタン含有ガスの加工に関する共同研究のためのMOUでございました。

共同調査の結果、ガスの化学加工に関する4つの手法が開発されました。そして第一段階といたしましては、高密度ポリエチレンを年間15万t生産する方針が選択されました。その際、高密度ポリエチレンの生産には三井化学の技術、また積水化学の高密度ポリエチレン管の使用の経験を活用していく予定になっております。現在このプロジェクトに関しまして、プレエンジニアリング、基礎設計、EPC（Engineering, Procurement and Construction）、プロジェクトのファイナンスに関して交渉が継続中でございます。

そして、ガスのメタノール加工およびメタノールの高品質ガス化学製品への加工に関しまして三菱商事と交渉中でございます。

日本企業のプラスチックパイプ製品の生産と使用の大きな経験を考慮いたしまして、本日のトルクメニスタン側の代表団には関連の専門家も参加しております。ガス部門におけるプラスチックパイプの使用に関して、日本の方々と経験を交換し、新しい技術の研究を進めていくということで、将来的にはトルクメニスタンの産業過程でその技術を使用していくことを目指してまいります。

また両国で行われております対話は大変幅広い分野で順調に発展をしております。例えば従来からのトルクメニスタンの気候に最も適していることが証明されました特殊機械の供給などもあげられます。そして2012年ですが、トルクメンガスはコマツのブルドーザーやパイプ敷設機、エクスカベーター、オートローダーなど建設機器の輸入に関する契約書を伊藤忠と調印いたしま

した。その総額は約 440 万ドルになっております。

親愛なるご友人の皆さま、トルクメニスタン大統領はイノベーション技術のような重要な分野をはじめとして、科学技術の発展を優先課題と銘打っております。これに関連して日本の研究者の皆様に対し、トルクメンガス傘下の石油ガス研究所との協力に関しても呼びかけさせて頂きたいと思います。日本は世界の最新技術のリーダー的存在であります。我々といたしましても今後、トルクメニスタンの専門家のために、ハイテクやナノテク、経済、生産に関する経験を紹介していただくようなセミナーを開催して参りたいと思います。

今後とも両国の経済関係の発展に全力を尽くしていく所存でございます。豊かな天然資源を持つトルクメニスタンと、ハイテクを強みといたします日本はお互いを補いながら協力していけると確信しております。本日のような会合というのはトルクメニスタンと日本の貿易投資関係をさらに高いレベルへと活性化し、両国の経済関係を促進する方向性を探る良い機会になってまいります。私の方からは以上です。ご清聴ありがとうございました。



喜多敏彦 日本トルクメニスタン経済委員会副会長／双日㈱常務執行役員・機械部門長 報告「トルクメニスタンにおける双日株式会社の活動」

今日はホジャムハメドフ閣下をはじめとするご来賓の皆様の中でスピーチする機会を頂戴し、誠に光栄に存じます。簡単ながら、双日のトルクメニスタンにおける活動内容につき報告させて頂きます。

弊社のトルクメニスタンにおける活動は、独立後まもない 1990 年代に、JBIC によるファイナンス、NEXI による貿易保険供与の支援を受け、トルクメンバシ製油所向けガソリン改質プラント（CCR）を建設、その後すぐにポリプロピレンプラントの建設プロジェクトに参画することで始まりました。

その後長い空白期間がありましたが、ベルディムハメドフ大統領閣下の提唱される国づくりの一環としてテジェン市で新規肥料プラントの建設が計画され、当社は川崎重工と共に入札に参加し、結果、プラントの建設地はマルイ市に変更となりましたが、再度 JBIC によるファイナンス、NEXI による貿易保険供与の支援を受け、2009 年に建設契約を受注致しました。現在、2014 年の完工に向けて鋭意契約履行中です。これが現在、ホジャムハメドフ副首相閣下の述べられた案件の肥料プラントでございます。同肥料工場は、世界の最先端の技術を貴国に導入するもので、規模も最大のものです。完成致しますと、トルクメニスタンにおける当面の肥料需要を賄う事が可能となり、貴国の農業政策に貢献できるものと期待しております。

一方、製品輸出を目指す次の案件として、ガラボガスでの新規肥料工場案件も川崎重工と共にワークしております。これは先ほど三菱商事の中原さんご紹介された案件と同一案件でございまして、私どもは競争ということになりますが、我々グループが受注できました暁には、マルイ案件の経験を 100%生かし迅速な完工を目指してご期待に添えたいと思っております。

JBIC、NEXI の御英断により、トルクメニスタン向けのファイナンスが再開されました。この点を高く評価頂き、日本企業への期待が高まっていると聞き及んでおります。当社にも、ベルディムハメドフ大統領閣下からの期待も熱く、遂行責任者であるホジャムハメドフ副首相指導の下、各種案件の参画のチャンスを頂き、近い将来、国営化学公社トルクメンヒミヤをはじめとする国営企業との間にて新たな契約ができるものと期待しております。

その一つは、トルクメンヒミヤ向け硫酸プラント建設契約で、三井造船とルネッサンス社とのコンソーシアムによる契約です。三井造船の硫酸プラント業界における地位は、まさに No.1 であり、マルイ肥料工場に続き、世界一流の技術を御国に紹介できる事は、当社の喜びとするところであります。この 7 月中にも契約にこぎつけたいと思いますので、ホジャムハメドフ副首相閣下よりの絶大なるご支援をお願い致します。なお、三井造船は、エチレン、ポリエチレンをはじめとするペトロケミカルの分野でも多数の建設実績を有しており、貴国の発展の為に最大限の努力をする用意があるとおっしゃっております。是非、硫酸プラントに続き、チャンスを頂ければ幸甚です。

こうしたプラント建設契約の遂行・交渉過程を通じて、トルクメニスタンの政府及び国営企業とは良好な関係を構築してきております。この関係の維持および発展、そしてビジネス拡大の為、2010 年に双日として駐在員事務所をアシガバード市に開設、日本人 1 名を常駐させております。現在では、日本人を常駐させている唯一の日本の会社との名誉ある地位を築いており、今後とも、

トルクメニスタン・日本の良好な関係発展に寄与できればと祈念しております。

また、ささやかではありますが、同国の経済のみならず文化・社会貢献の一環として、2010年度、2011年度に双日海外交流財団を経由して、アサディ大学日本語学科へ電子辞書の寄付を致しました。肥料プラント案件でのパートナーである川崎重工業は、トルクメニスタンの高校卒業生5名を留学生として日本に受け入れ、大学卒業までの5年間の日本での研修を御世話しており、トルクメニスタンの将来を担う人材教育への貢献を果たしたいと希望しております。

私の報告は以上です。ご清聴ありがとうございました。

バラカエフ・国家コンツェルン「トルクメンヒミヤ」総裁 報告「トルクメニスタンの化学産業分野の投資プロジェクト」

親愛なるご列席の皆様、会議参加者の皆様！

尊敬する私どもの大統領、ベルディムハメドフ閣下が定めました化学部門の優先課題の一つが、効率よく、省エネで環境にやさしい最新の科学技術を生産現場の工場に導入することであり、そして化学部門の技術刷新を実現できるような外国投資の誘致をしていくことでございます。

国家コンツェルン「トルクメンヒミヤ」は9つの工場と、建設中の新設工場を経営いたします2つの事業本部、そして消費者に肥料の販売サービスを行う企業を統合しております。化学産業発展戦略というのは、国産の原料を最大限に活用すること、そして他の産業部門に不可欠な化学製品の需要を満たすこと、そして輸出ポテンシャルを拡大することでございます。この戦略の枠内で重視されておりますのが、鉱物肥料の増産でございます。この背景には、国内に資源の基盤と大きな市場があるということが挙げられます。またエネルギーの大きな可能性を持ち、化学製品の輸出発展の見通しがある、ということが挙げられます。

私どもの国のユニークな資源力を用いれば、国内需要をすべてカバーできる量のあらゆる種類の鉱物肥料を生産することができます。また輸出ポテンシャルを向上させることができます。トルクメニスタンは世界でも有数の天然ガス埋蔵量を誇る国でございます。そのため、将来的には、窒素肥料や尿素などの新たな生産工場を増設する可能性が十分にあると見ております。

こうした課題の解決にあたり、トルクメンヒミヤは日本の大手企業の皆様と互恵的な協力関係を重視していきたいと思っております。

現在トルクメニスタンにおきましては、日本の川崎重工と双日のコンソーシアムが参画されまして、近代的なアンモニア尿素工場の建設がすでに着工されております。本プロジェクトに多額の融資を実施していただいておりますのが、JBICでございます。

近い将来また、トルクメニスタンの北西部にももう一件の大きなアンモニア尿素工場の建設が予定されております。本プロジェクトに関しては、日本の大手企業、三菱商事や三菱重工などが参画の意思表示をしていただいております。

窒素肥料の増産計画と併せまして、トルクメンヒミヤは世界市場で特に需要の高いカリ肥料の生産開発も推進しております。トルクメニスタン国内には、カリウム塩を含む豊かな鉱床が多数あります。カリウム鉱石の埋蔵量の評価およびその探査度合を鑑みますと、今後の開発に最も有力と思われます鉱床が3つ挙げられます。ガルルイクスコエ、カラビリスコエ、チュベガタンスコエでございます。これらの鉱床はすべてレバプ州に存在しており、鉱床の総埋蔵量は暫定評価でカリウム鉱石 20 億 t を超えると言われております。

カリウム鉱山開発の重要な一歩となりますのが、ガルルイクスコエ・カリウム塩鉱床の開発に關しますトルクメニスタンとベラルーシの間で結ばれました協定でございます。トルクメンヒミヤとベルゴルヒムプロムの間で調印されましたこの契約書に基づきまして、カリ肥料生産採掘・選鉱コンビナートの建設が開始されました。このように、国内経済に新しい採掘・加工部門の礎が築かれております。

リン酸肥料に関しては、本年トルクメナバト化学工場内に新たな硫酸生産工場の建設が開始いたします。この生産が開始されますと、リン酸肥料の生産の拡大に寄与することになります。本

件に関しては、三井造船から参画の意思を表明していただいております。この部門に掲げられました課題を実施できれば、トルクメニスタンは近い将来、鉱物肥料の輸出大国になります。

化学部門の発展プログラムに従いまして、近い将来、トルクメンヒミヤは、苛性ソーダ、塩素、塩素派生物のプラントをバルカン州で建設する予定になっております。この生産原料としましては現地産の食塩が使用されることになります。本件には、三井造船とダイソーエンジニアリングから参加の意思を表明していただいております。また、このプラントには旭化成の技術を使用することになっております。

トルクメニスタンは、世界でも水・鉱物資源の埋蔵量で上位を占めております。この資源といたしましては、ガラボガスゴル湾の結晶間および表面の塩水、地下ヨウ化臭素水、石油・ガス田の層間水が挙げられます。現在それを基盤といたしまして、鉱物塩、ヨウ素の加工物が生産されております。そして鉱物原料の基盤整備に重要な役割を果たしておりますのが、このガラボガスゴル湾でございまして、これは地球上でも最も巨大な硫酸ナトリウム、その他鉱物の産地でございます。この湾の豊かな鉱物資源は、マグネシウム塩、ナトリウム塩、臭素、ホウ素、リチウム化合物など、広い品目の生産にとってほぼ無尽蔵の原料となります。

現在、それを基盤といたしまして、生産合同「ガラボガススリファト」では、硫酸ナトリウム、硫酸塩、塩化マグネシウムが生産されております。トルクメニスタン化学部門発展計画におきましてガラボガスゴル湾の鉱物資源の総合的な開発をもとにこれらの製品を増産する計画になっております。中でもこの湾に硫酸ナトリウムと合成洗剤のプラントを建設することに関して、活発な交渉が行われております。その交渉に参加されておりますのが、月島機械とトルコの会社「ルネサンス・トルクメン」でございまして、これらの企業は技術としてイタリアの「Desmet Ballestra」、そしてドイツの「GEA」を利用することを提案しています。本プロジェクトの実施というのは、この地域にとって重要な社会・経済的な意味を持っております。そして、双日やJBICから協力をいただきまして、日本企業と実施いたします新しい化学部門でのプロジェクトのファイナンスに当たっていただいております。

カザフスタン、トルクメニスタン、そしてイランの鉄道を結ぶ新しい国際鉄道の建設や、カスピ海沿岸の新しいガスパイプラインの敷設というのは、今後プラントのインフラ整備の基盤となり、投資を魅力的にしていきたいと思います。

投資の観点から見て極めて将来性の高い分野といたしまして、ヨウ素と臭素の生産も挙げられます。ヨウ化臭素水の資源量で、トルクメニスタンは世界で上位を占めております。我が国には、確認埋蔵量を持つ5つのヨウ化臭素水の産地がございます。さらに、ヨウ化臭素水の兆候が認められる場所が数多くあり、その埋蔵量は今後確認される予定です。ヨウ素や臭素の生産の原料といたしまして、石油・ガス田の付随水が活用できます。この水はヨウ化臭素水とほぼ同じ化学組成を持つものでございます。現在トルクメンヒミヤ傘下の企業は、年間 500 t を超えるヨウ素を生産しております。もしヨウ化臭素水の資源量が確認された産地だけでも活用すれば、ヨウ素の年間生産量を 3,000 t まで伸ばすことができます。将来性のあるものといたしましてさらに、無機有機派生ヨウ素・臭素のプラント建設が挙げられます。現在トルクメンヒミヤはバルカン州に、ヨウ素・臭素、そしてその派生物を生産する2件のプラント建設に関するプロジェクトを実施すべく準備中でございます。

トルクメンヒミヤは、さらにトルクメニスタンの石油ガス部門の天然ガス加工プログラムの作

成に積極的に参加しております。トルクメニスタンの天然ガスの膨大な埋蔵量を考慮いたしまして、その総合的な加工とそれを基にした高品質の製品の生産というのは、非常に魅力的な事業でございます。トルクメニスタンにおきましては、家庭用化学製品やゴム技術製品、メタノール、そしてポリプロピレンやポリエチレン、ポリ塩化ビニールなどの有機ポリマー、さらにホルムアルデヒド樹脂や、それらを使った染料や接着剤、建材、構造材などの効率の高い生産を行う条件がすべて整っております。

当然、我が国といたしましては、世界市場で化学製品の輸出大国になることを目指しております。トルクメニスタン政府が、交通インフラの発展および大きな港なども含めた世界輸送網への統合に向けて実施する政策は、化学製品を大量に輸出することを可能といたします。国内経済の多様化戦略の枠内で整えられた資源の条件基盤、そして経済・政治の環境というのは、トルクメニスタンの加工業、とりわけ化学部門の発展への投資を誘致する現実的な基盤となります。私どもの尊敬するベルディムハメドフ大統領が進める開かれた投資政策というのは、外国投資家に対し有利な協力関係の発展に広い大きな可能性を開くものであります。

尊敬するご列席の皆様、私ども国家コンツェルン「トルクメンヒミヤ」といたしましては、トルクメニスタンの化学産業発展プロジェクトに、ぜひ皆様方に積極的にご参加いただき、今後互恵的な協力関係に基づいたビジネスを順調に拡大して下さるよう、呼びかけさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

＜第2セッション＞

アタエフ・トルクメニスタン経済発展省戦略計画・経済発展研究所所長 報告「トルクメニスタンの投資政策」

ただいま両会長の基調報告、その他の方々の報告を伺いまして、私が準備した中のかんりの部分はすでに指摘されております。私の報告の中では重要な部分だけに絞り、両国の協力関係に資するポイントを挙げていきたいと思ひます。

まず現在のトルクメニスタンの経済状況について少しだけ触れさせていただきたいと思ひます。最初に小林会長の方からもご指摘ありましたように、経済成長は非常に目覚ましいものがござひます。2011年、2012年、2桁台の経済成長を示しております。権威ある国際金融機関でありますIMF、世銀、アジア開発銀行などの予測によりまして、トルクメニスタンのこのような顕著な経済成長は今後も続いていくという評価をいただいております。

ここで重要なことは、投資の伸びが非常に顕著であるという点です。このような投資の拡大は、大統領の再選、それによる安定したプログラムの実施の成果としてでてきたものであり、私どもが現在実施している経済発展プログラムについては皆様方のご承知の通りと思ひます。投資分野の政策につきましては、大統領の方針として、外国投資の受け入れに重点を置いております。この中で重要なポイントは、開放政策と呼ばれるオープンな政策です。

貿易収支ですが、トルクメニスタンの貿易は大変拡大しておりまして、特色としては、輸出が輸入を大幅に上回っているという点です。貿易黒字は対輸入額の67%という非常に大幅な貿易黒字を持っております。

また金融部門、銀行部門は非常に安定した活動をしております。世界金融危機の時には、大統領のイニシアチブで国の通貨の固定という政策をとりました。ここ4年間、我が国の通貨マナトのレートは安定して推移しております。

もう1つ、我が国の経済の特色といたしまして、社会的な安定を目指しているという点があります。独立後20年間、トルクメニスタンは国民の団結というものを強力なベースとして発展してまいりました。そして大統領の政策が目標としているのは、社会福祉国家を目指すということです。

それから、我が国の経済政策の方向性として、経済の発展、外国投資の受け入れを目指す法基盤の整備に力を入れていくということがあります。我が国の法律が国際的な基準に合致したものであるための努力を重ねております。

ホジャムハメドフ副首相の方から、トルクメニスタンとしては日本を重要なパートナーとして見ているとお話をさせていただきましたが、両国の貿易、輸出と輸入のインバランスについても指摘させていただいたところでありまして、現在、日本のビジネス関係の事業所といたしましては、トルクメニスタンに5つあります。そのうち3つが代表事務所でありまして、2つが支店となっております。まだわずか5つではありますが、このような進出がさらに増えてほしいと考えますし、代表事務所や支店だけではなく、現地法人を設立するなど、その他の別の形態でも両国の協力関係というものが発展してくれることを期待いたします。

両国の協力関係におきまして、まさに今、その多様化を図っていかなければならないという

時期に来ていると思います。もちろん石油ガス分野や化学分野は今後も両国の協力において重要な位置を占めていくと思いますが、私たちはそれに加え、日本の技術に高い関心を持っております。この会議でもすでに指摘がありましたように、今後の協力の分野として繊維産業、建設資材製造部門、機械製作部門、計測器製造部門、そして電気設備の製造など協力の可能な分野はまだまだあると考えます。

現在のところトルクメニスタンでは、26 のプロジェクトが日本の参加をもって実施されてきましたし、実施されている途中でもあります。その内訳を申しますと、ドルベースで実施されているプロジェクトが7億8,120 万ドル、そして円ベースで9,912 億円が行われております。ドルベースのプロジェクトの内訳としては、石油ガス分野、繊維分野、それから水関係の事業などがあります。円ベースで実施されているプロジェクトといたしましては、化学分野、繊維、輸送分野などが挙げられます。

こういった中で、大統領のイニシアチブとして輸送回廊を作るというアイデアが示されております。トルクメニスタンは地理的に非常に有利な場所にありますので、輸送ロジスティクス拠点として、アジアとヨーロッパを繋ぐ貨物輸送のルート、トランジット国として協力を発展させていくことができると考えております。現在、大統領のイニシアチブの下で鉄道のルートとして南北を結ぶ鉄道建設が進められております。国連第66回総会で演説をしたベルディムハメドフ大統領は、東西を結ぶ回廊の創設についてのアイデアを提案しております。

トルクメンバシの港ですが、トルクメンバシは4つの種類の輸送手段を兼ね備えた非常に良好な条件を備えた街ですので、ここに貿易ロジスティクス、輸送のセンターを形成していくということも将来性のある方向であると思います。

観光分野も投資の可能性のある分野です。大統領のイニシアチブの下、トルクメニスタンでは、カスピ海の沿岸の保養地として「AVAZA」というリゾート地の開発を進めております。インフラ建設の分野、それからツーリズムの分野におきましても、国際基準に見合ったインフラができていくようにぜひ日本の技術を使わせていただき、日本企業の皆さま方のご参加をいただければと期待しております。

まだまだご提案したい具体的なプロジェクトなどたくさんあるのですが、時間も限られていることですので、今後、日本トルクメニスタン経済委員会のお力をお借りして、両国の経済関係がますます発展していくことを祈念して発言を終わらせていただきます。ありがとうございました。

それから、ROTOBO を中心に投資環境整備ネットワークを作っていただくというお話が進んでいることでありますし、ホジャムハメドフ会長におきましても投資環境を整えていくためにあらゆる可能性を導入していくお話がありましたので、ぜひ期待したいと思います。オープンな経済政策を推し進めているトルクメニスタンにとって、日本が今後も長期的・戦略的なパートナーとしての姿勢を持ち続けて下さることを心から期待いたします。



INSTITUTE OF STRATEGIC PLANING AND ECONOMIC
DEVELOPMENT
OF MINISTRY OF ECONOMY AND DEVELOPMENT OF
TURKMENISTAN

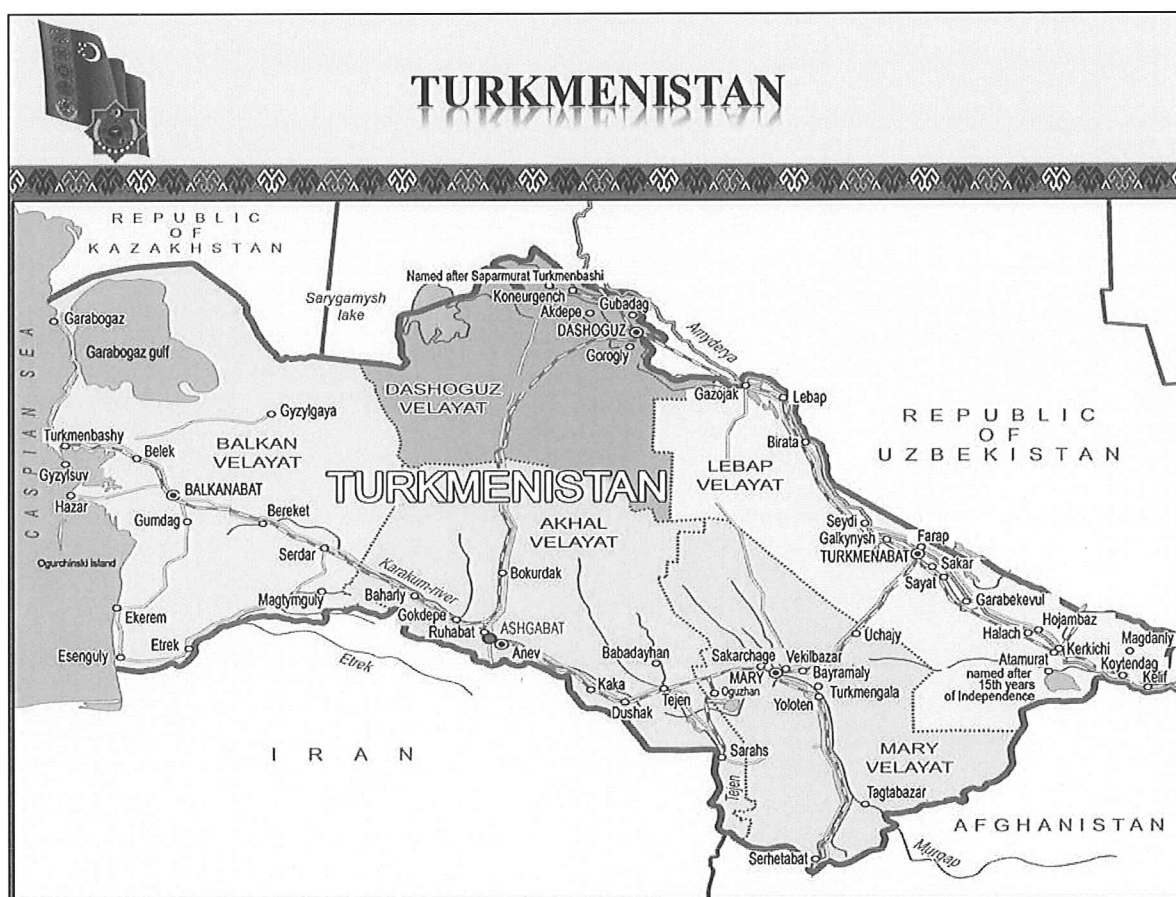
The prospects of mutually advantageous cooperation between Turkmenistan and Japan

Muhammetgeldi Atayev

Director

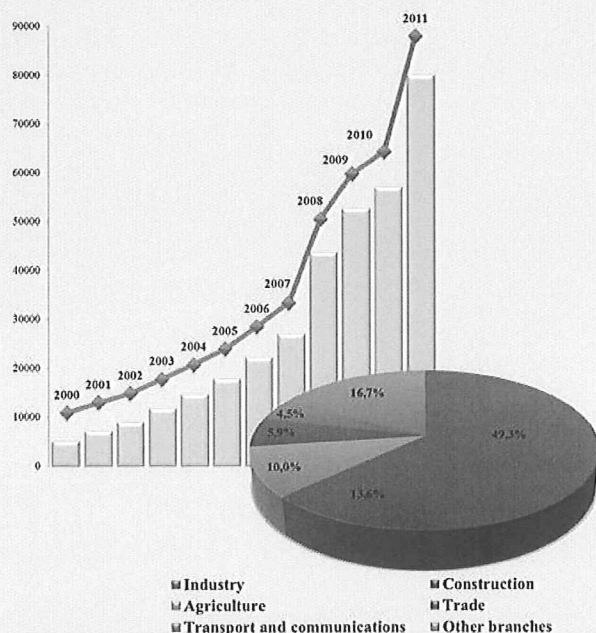
Doctor in Economics, Professor

Tokyo – 2012





GROSS DOMESTIC PRODUCT (GDP)



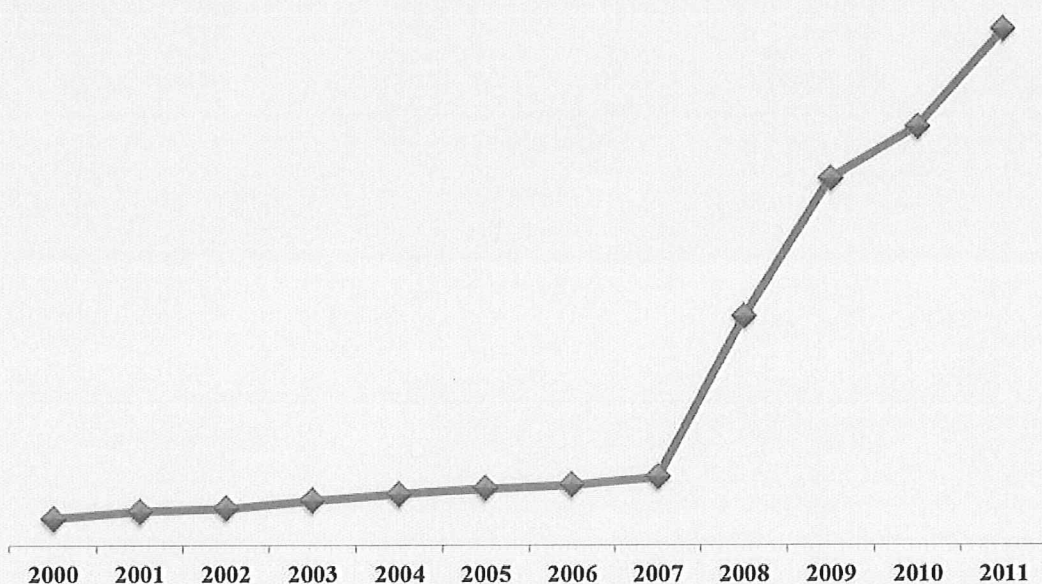
General specifications:

- high rates of economic growth;
- social and financial stability;
- budget surplus;
- high investment activity;
- positive balance of trade and balance of payments;
- stability of national currency;
- steady increase in income;
- accumulation of funds in international reserves;
- creation of new jobs and etc.

1



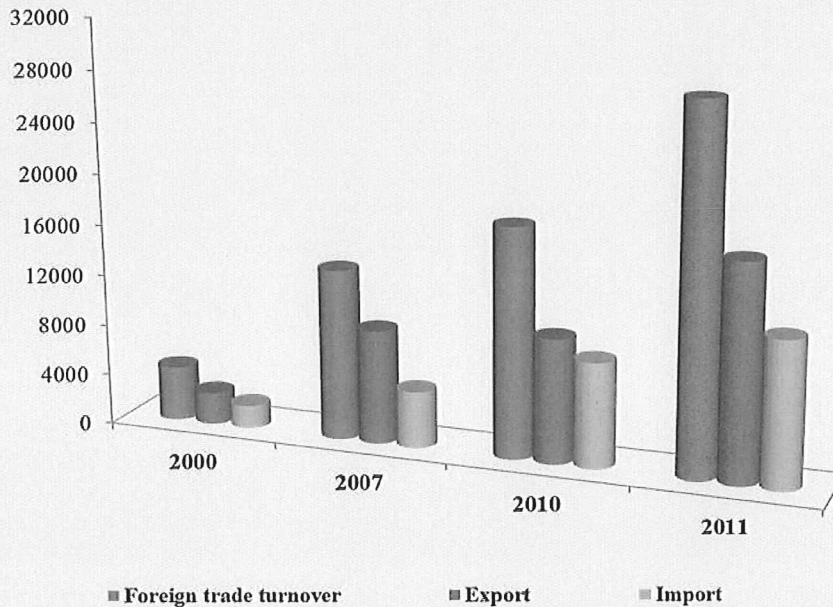
CAPITAL INVESTMENTS, MILLION MANAT



2



FOREIGN TRADE TURNOVER, MILLION USD

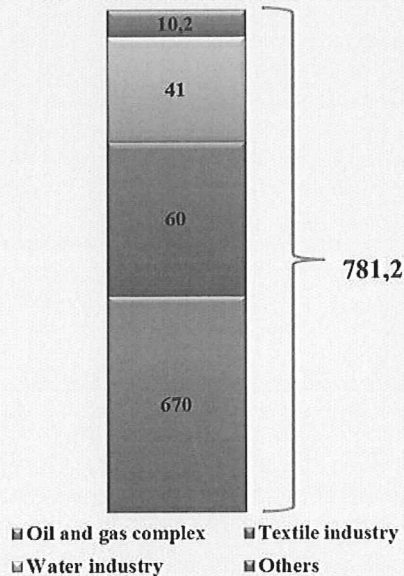


3

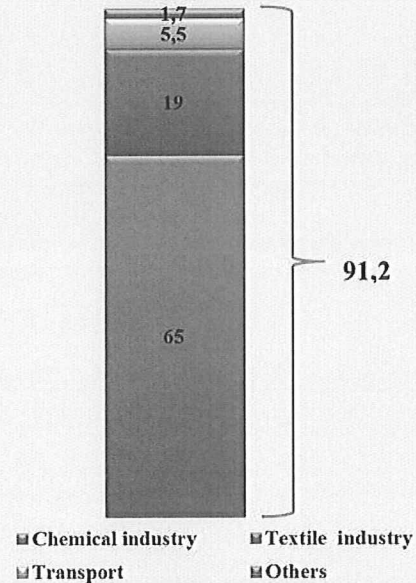


FIELD OF EXISTING PROJECTS WITH THE PARTICIPATION OF JAPANESE COMPANIES

IN MILLION USD



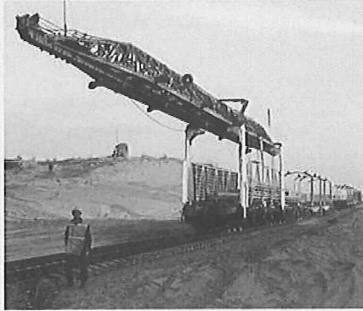
IN BILLION YEN



4



THE NORTH-SOUTH AND THE EAST-WEST TRANSPORT CORRIDORS



*It will connect the railroad trunks of Russia, Kazakhstan, Turkmenistan and Iran
with further extension to the Persian Gulf and Indian Ocean.*

5



TRANSPORT INFRASTRUCTURE



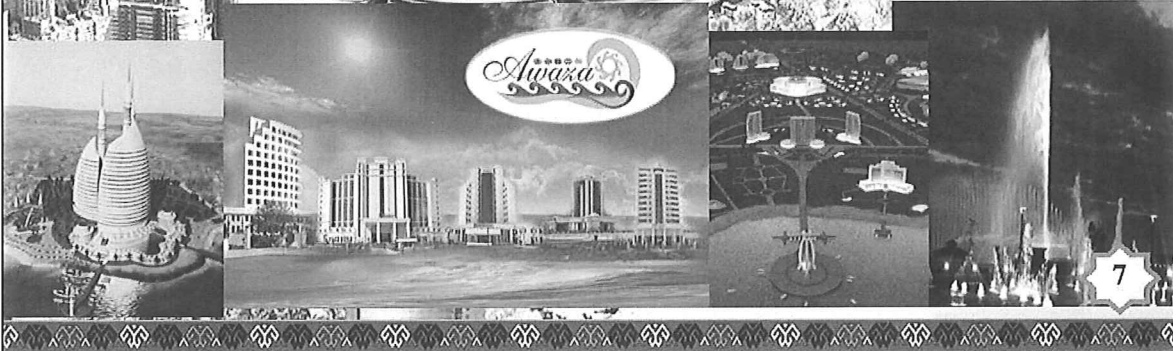
- Reconstruction of airports
- Reconstruction of sea port and construction of modern marine passenger terminal in Turkmenbashi city

6



BENEFITS FOR INVESTORS IN NATIONAL TOURIST ZONE "AVAZA"

- **Permission of free transactions of unused profits;**
- **Simplification of visa regime for tourists and the foreign specialists and workers who will work in the national tourist zone;**
- **Implemented State registration of juridical parties and investment projects;**
- **Provided extensive benefits on property tax, income tax and VAT ;**
- **Free of charge rent land**



MAIN DIRECTIONS OF ATTRACTION OF FOREIGN INVESTMENTS

- to the further development of the fuel energy complex on the base of new technology and world know-how;
- to the diversification and steady raising of the capacity of production of chemical industry, on the base of rich mineral resources of the country;
- to the further diversification of the metallurgical industry;
- to the production of high quality ecologically pure food product, based on the development local agricultural and agro-industrial complex;
- to the development of the textile industry;
- to the increase of the local medicine production, based on the local materials and medical herbs of Turkmenistan;
- to the development of the tourism due to further development of recreation, touristic and medical-prophylactic infrastructure;
- to the modernization of the transport, technological reconstruction of transport systems on new logistic-technological base;
- realization and expansion of the new information and communication technologies.

THANK YOU FOR YOUR
ATTENTION!



佐藤 歩 伊藤忠商事モスクワ駐在員事務所
報告「グローバル化する繊維ビジネス:トルクメニスタン繊維産業との関連」

ホジャムハメドフ副首相、および各界の皆様、今回の発言をありがとうございます。御国における主要産業の一つであります繊維産業に関して、少々お話しさせていただければと思っております。少し専門的な数字も出てきますので、お手元の資料とも併せてみていただければと思います。

まず繊維産業の一般的な立ち位置、世界的に見てどういったところにあるかということから述べさせていただければと思っております。御国におきましては、繊維産業におけるメリットというものを端的に3つほど挙げられるかと思えます。まず、投資が非常に小規模から行うことができ、発展のスピードが早く開発できるという点が1つです。それと労働集約的な産業でありますので、御国における雇用の確保に相当貢献することができると思っております。加えて、繊維産業は基礎的な産業でありますので、世界的な産業である電子産業、車の産業等その他の付加価値のある製造業への発展の礎となるものだと思っております。特に御国におきましては、綿が多く採れます。その中でこのストックフィールドを活用しまして、繊維産業を効果的に発展させることが可能だと考えております。特に製造業、繊維産業が発展することによって、資源経済への依存からの脱却ということもテーマとして掲げることができるかと思えます。

そこで、世界的に見た繊維産業の立ち位置という話になるのですが、繊維の需要ないし消費というものはどういう傾向になっているかということを見ていただきたいと思います。まず消費面から申しますと、2010年から2012年までの予想に関しては、一人約10~12kgくらいで、これは糸から綿からすべてになりますが、ほぼ60億人の世界の人口は約10kg以上の繊維を使っているということになっております。この傾向は増大中です。そこで内訳ですが、2010年の資料で8,000万tが世界で消費されている繊維でございます。合繊と天然の比率は54対46というのが2010年です。コットンは比較的安定した需給なのですが、合成繊維、化繊が急増中です。この部分の強化というのは、繊維産業ではかなり大事なことになってくると思えます。

繊維産業は身近すぎてわかりにくいのですが、かなり国際化が進んでおりまして、消費地、生産地というものが入り乱れて相互補完関係が深くなっております。おなじみのH&Mといった服ですとか、マークス&スペンサーの商品など、こういったものも世界的分業体制の成果物として出来上がってきているものです。これを国ごとに分析しまして、まずアパレルの分野で輸出と輸入を見ますと、世界的に製造・輸出大国となっているのが中国地域、およびヨーロッパです。消費地としてはEU、アメリカ、日本ということになります。糸や生地など原材料となりますと、輸出製造大国はやはり中国とヨーロッパです。原材料の買い付けとしますと、ヨーロッパ、アメリカ、中国となります。これらの国々・地域へのアクセスというのが繊維産業ではキーとなると思えます。特に中国において市場は大きく変化しておりまして、急増中の数値となりますが、中国における綿の製造および消費というものには注目しておく必要があると思えます。特に原材料でいいますと、合成繊維では世界の生産のほぼ半分、コットンの糸では3分の2強、生地では半分弱のシェアを占めることとなります。また人口の多さから消費としての期待も大きく膨らんでくる市場かと思えます。

このように繊維産業にあたっては国際化のリンクも大事ですが、まず繊維産業の高度化および

製造工程の付加価値化も大事になってくると思います。特にこのフローで言いますと、綿花という原料から糸、糸からより細い高品質の糸、また化合繊化といった合繊との混紡などが大事になってくると思います。こういった多様な技術と高付加価値化した製品、材料をもって世界的なトレンドやファッション、傾向をつかむことで先ほどの各市場にアクセスしていくということが大事になってくると思います。特に御国は綿の材料が非常に高品質だと聞いておりますので、この過程というものはかなり実現可能なフローだと思います。綿が中心だと思いますが、化合繊、特に合繊、ポリエステルといったものを混紡することによって、世界的に競争力のある商品を作ることが繊維産業では大事になるのではないかと思います。

まとめますと、いくつか重要な点が出てくるかと思いますが、まずは中国をはじめとした世界的な市場、および製造地とアクセスを容易に、中長期的に見て安定的な関係を作ること、加えて付加価値、綿は綿でも細くて高品質な糸を作っていく、また先ほど言った化合繊との混紡など、そういった技術を高めていくことなどです。

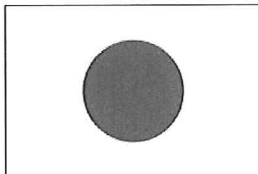
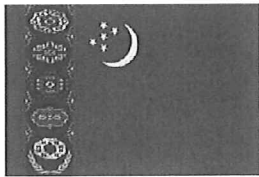
伊藤忠商事としましては、繊維産業において世界的にかなり価値のある活動をしております。150年の歴史をもって、繊維産業の発展の主役を担ってきました。原料のビジネスから生地ビジネス、生地ビジネスから製品のビジネス、製品のビジネスからブランドライセンスおよびeコマースという付加の高いものにどんどん進化していきました。こういった伊藤忠の機能を御国における繊維産業とマッチングすることで発展に貢献できるのではないかと思います。このように進化する発展モデルのご提供以外には、具体的に申しますと、例えば繊維機械のご提供、技術のご提供、商品企画等のご提供、およびファンドのご紹介等で貢献できるものではないかと考えております。こちらが私どもの世界的な拠点でございます。消費地と生産地を繋ぐということが非常に大事でございますので、そういった部分での情報面および流通面での貢献ということも可能かと思っております。

繊維産業は世界的に見ても相当な激戦産業でございます。その部分を、伊藤忠の歴史・経験とグローバルネットワークを活用して御国の製造産業の発展に貢献できればと思っております。ご清聴ありがとうございました。

【ホジャムハメドフ会長コメント】

繊維に関して、今のご報告は大変良いご報告だったと思います。伊藤忠さんは大変優れたネットワークをお持ちでいらっしやいまして、繊維製品の生産から販売まで活動しておられると承知しております。トルクメニスタンの繊維産業と協力して、総合的な形での繊維産業発展のスキームの形成にご協力をいただければ大変うれしく思います。天然繊維だけではなく、化合繊などを含めての繊維産業の発展というものは私どもにとって大変関心の深いところでありまして、またその生産から始まりロジスティクスまでを含めた全体的なアプローチというものは非常に重要だと思います。今回のミッションには繊維工業省の次官も入っておりますので、ぜひそのような形での今後の協力を進めさせていただければありがたいと思います。ありがとうございました。

Textile industry globalization related to the next step of Turkmenistan



July, 2012
ITOCHU Corporation

Copyright Itochu Corporation



Merits of the Textile Industry

Textile industry is the base of the manufacturing industry, independent of natural resources:

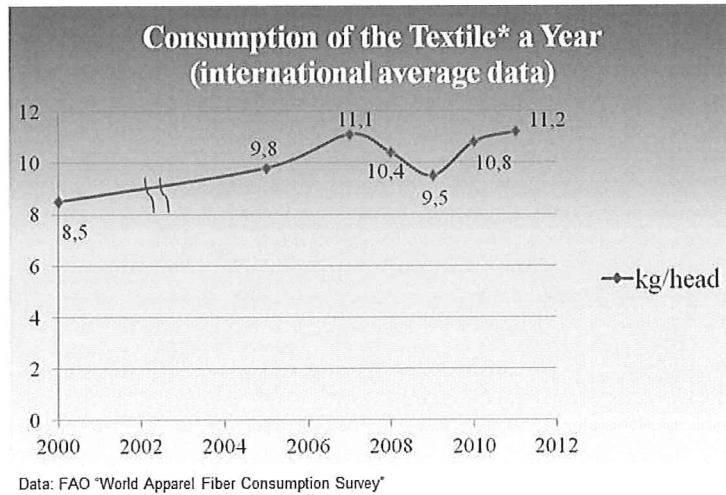
- ✦ low capital investment
- ✦ labor-intensive industry
- ✦ starter of more valued industries like electric appliances, machinery, automobile industries, etc.

Textile industry is the booster and the symbol of growth and stability of economy instead of volatile economy dependent on natural resources.



Demand of the Textile Materials in the World (1)

Textile industry is a growing industry from the global view.



*Incl. fiber, yarn, fabrics, garments

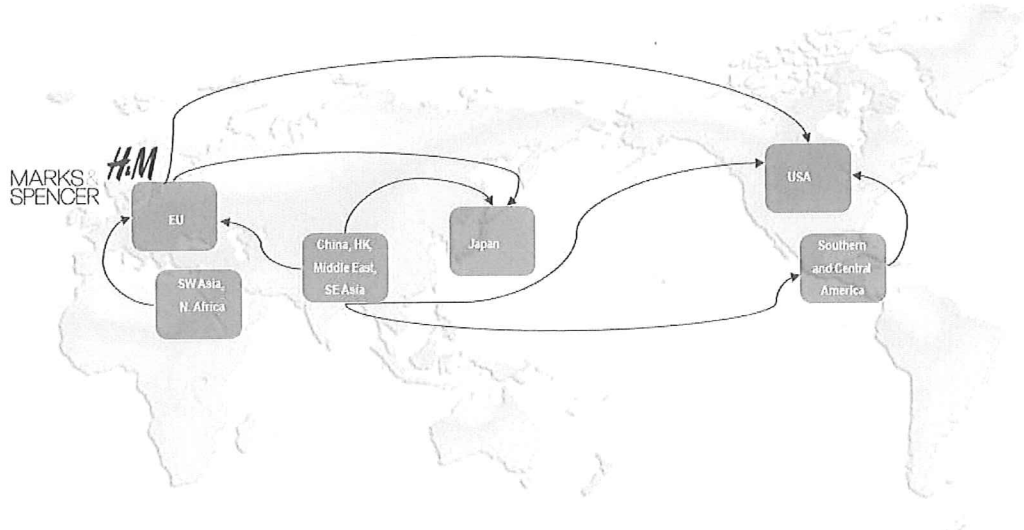
Demand of the Textile Materials in the World (2)

Year	Chemical and Synthetic Fibers (over 90% of synthetic fiber), mill. ton	Natural Fibers (over 90% of cotton fiber), mill. ton	Total, mill. ton
2001	35	26	61
2005	43	25	68
2010	54	26	80

Data: FEB "Fiber Organon"

Globalization of the Textile Industry (1/3)

Textile industry is promptly globalized on production and consumption areas



Globalization of the Textile Industry (2/3)

Apparel Exp/Imp data

Year	Exporting, bill. USD			Importing, bill. USD			
	Total	China & HK	EU	Total	EU	USA	Japan
2008	365	148	114,3	365	180	82,5	25,9
2009	315,6	140	97	315,6	160	72	25,5

Textile Exp/Imp data

Year	Exporting, bill. USD			Importing, bill. USD			
	Total	China & HK	EU	Total	EU	USA	China & HK
2008	253,3	77,5	81	253,3	84,9	23	28,5
2009	211	70	62,2	211	66	19,2	25

Data: WTO

Access to these countries is the key.

Globalization of the Textile Industry (3/3)

★ Focusing on China

- China is the main player from the point of production.
You can see the “Made in China” everywhere.

Production of the Main Textile

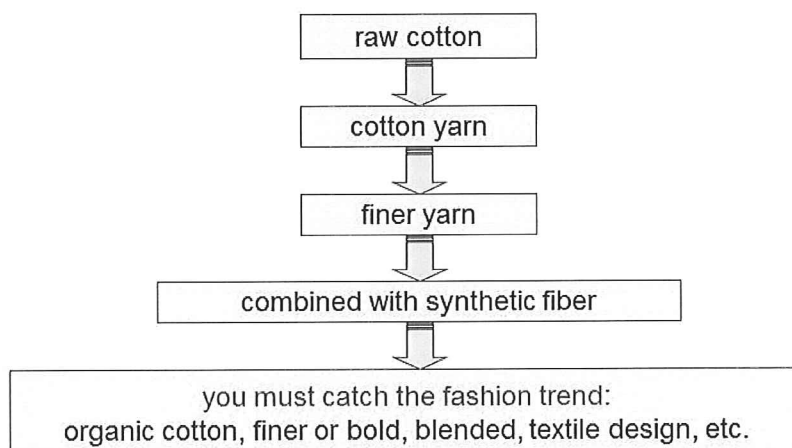
Year	Synthetic Fiber, mill. ton		Cotton Yarn, mill. ton		Cotton Fabric, mill. ton	
	China	World	China	World	China	World
2009	23	37	24	36	7,5	18
2010	27,5	42,5	25	37,2	7,7	18,6

Data: JCFA & ICAC “Cotton World Statistics”

- Big growing consumption country.

Development of the Textile Industry

Textile industry must be constantly and carefully developed with value adding like hi-quality and fashion trend:

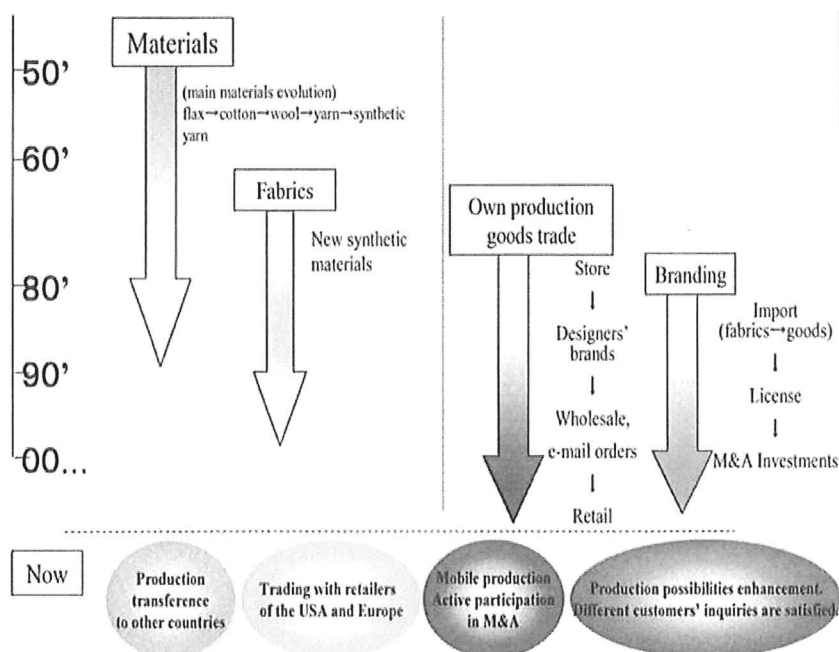


This development is the key issue to approach to the prospect market,
incl. EU, USA, Japan, China, etc.

Growth of the Textile Industry of Turkmenistan

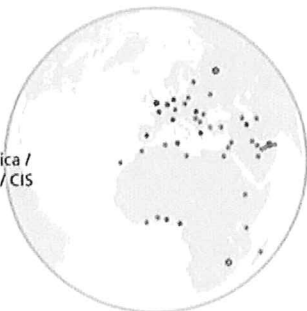
- The key of the growth of the textile industry of Turkmenistan is access to China and other prospect markets and value adding.
- Itochu can assist Turkmenistan in getting of the key because Itochu has a lot of experience in the textile industry for over 150 years and the global network.

ITOCHU is the Key



ITOCHU Global Network

Europe / Africa /
Middle East / CIS

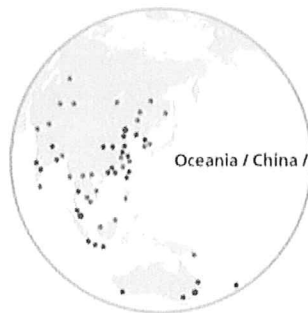


- Overseas Regional Headquarters
- Overseas Trading Subsidiaries
and their Branches / Offices
- Overseas Branches
- Overseas Liaison Offices
- Others

North America /
Latin America



Oceania / China / Asia / Japan



YOUR SOLUTION IS HERE

ITOCHU

THANK YOU FOR YOUR ATTENTION

梅津哲也 日本貿易振興機構(JETRO)海外調査部主査
報告「中央アジア諸国を含む途上国へのジェトロの協力の可能性」

尊敬するホジャムハメドフ副首相、日本トルクメニスタン経済委員会の小林会長、そしてご列席の皆様、本日は JETRO の活動と役割について貴国をはじめとする新興国の中にどのようにご利用いただけるのかといったことについてお話をしたいと思います。

JETRO は具体的なプロジェクトを行うわけではありませんが、日本の公的な貿易・投資の振興機関として、ビジネスの入り口、ベースを作るという役割がございます。JETRO の役割は大きく分けて2つあります。日本企業向けサービスと、外国企業向けあるいは公的機関向けのものの2つです。

日本企業向けのサービスとしては、第一にビジネスマン向けの情報提供があります。日本ではあまり知られていない国々でも実際には様々なビジネスチャンスがあるものと思います。それらの潜在的な有望案件を掘り起こして日本企業に紹介することが JETRO の役割です。トルクメニスタンも日本においてはそのような、なかなか知られていない国の一つだと思いますが、残念ながら日本で得られるトルクメニスタンの情報というものは非常に限られています。JETRO はビジネスマン向けの専門図書館を持っています。その中でトルクメニスタン関係の書籍、統計といったものもいくつかございますが、数は非常に少ないです。日本のビジネスマンは常に新しいビジネスチャンスを探しています。日本とのビジネス関係の一層の発展、あるいは投資誘致をお考えであれば、ここの画面にありますような統計やその他の書籍、そういった情報を積極的に JETRO にお寄せいただきたいと思います。

もう1つは JETRO で現地情報を正確に把握するために対象国に出張して収集を行うということもございます。その際に今までもいろんな方からご指摘があったように出張するためのビザを取るのが非常に難しいようです。経済関係、ビジネス関係を発展させるために発給をより簡素化していただければ、経済交流も一層活発化するのではないかと思います。

もう1つ JETRO の役割を紹介したいと思います。それは投資誘致セミナーを日本で開催する場合のお手伝いです。各国から大統領や首相など政府要人が訪日される際、投資誘致セミナーの開催をお手伝いすることがあります。その際に JETRO としては広報を始めとする色々なお手伝いをさせていただきます。トルクメニスタンでも日本でも投資誘致セミナーを開催するご希望があれば大使館あるいは JETRO のモスクワ、タシケントにある事務所を通じてご要望をお寄せいただきたいと思います。ただ日本では一部を除くとトルクメニスタンはまだ知名度は高くありません。また日本企業は投資先を決定する際に周辺国を含めて幾つかの国を比較して検討したいという傾向が強いです。この点を考慮した場合、中央アジア各国がまとまって日本で投資誘致セミナーを開催するということが出来れば非常に効果的ではないかと思います。中央アジアの各国がひとまとまりとなって正式に投資誘致セミナーの開催をご希望であれば、JETRO としては中央アジアの投資誘致セミナーの開催をお手伝いする用意があります。

以上、簡単ではありますが、JETRO の活動とサービスについてお話をさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。



JETRO's service and way of cooperation

The 10th Japan-Turkmenistan Joint economic conference
Jyly 19, 2012
Tokyo, Japan

Tetsuya Umetsu
Director, Russia and Eurasia, Overseas research dept.
Japan External Trade Organization (JETRO)

Copyright ©JETRO 2012. All rights reserved.



What is JETRO?

- JETRO: Japan External Trade Organization
(по русский: Японская организация по развитию внешней торговли(ДЖЕТРО))
- Japanese governmental organization to promote trade and investment between Japan and abroad which has 73 offices in 55 countries (excluding Japan)

• JETRO Worldwide



Copyright ©JETRO 2012. All rights reserved.



Main activity of JETRO

- research and report

- Gathering information;
Information about the economy, industry and companies in order to make business matching for Japanese companies seeking a new business opportunity.
 - We need various information for our library specialized for Japanese business person!
 - Statistics
 - Investment guide
 - Industrial report
 - Directory etc.
- ⇒ ***the easiest way to access Japanese companies!***

Copyright ©JETRO 2012. All rights reserved.



Main activity of JETRO

- research and report

- Field work research;
to gather more detailed information we organize business trip to the target country.
 - But sometimes....
 - difficult to obtain Visa
 - difficult to make an appointment with officials
 - very poor information
- ⇒ ***Clearing such barriers, it will be much easier to find a new business opportunity!***

Copyright ©JETRO 2012. All rights reserved.



Main activity of JETRO ***- organizing investment seminar***

- JETRO is ready to cooperate to organize seminars, if...
 - you are interested in it;
 - you contact us via official channels (embassy, our offices in Moscow and Tashkent);
 - you agree to organize it with your neighbors .

⇒ ***Let's make a new business opportunity with JETRO!***



Спасибо за Ваше внимание!

ご静聴ありがとうございました。

<質疑応答>

喜多副会長：

我々は今、プラント輸出等ではいろいろとお世話になっていますが、貴国での産業プロジェクト遂行における効率化あるいはコスト削減を実現するための各種プロジェクトの書類審査の簡素化、あるいはロシアの GOST 規格の国際規格への置き換えは今後推進していただけるのでしょうか。その点をお伺いしたいのですが。

ホジャムハメドフ会長：

プロジェクトの審査期間の短縮という問題ですが、勿論この分野はまだ改善の余地があるということは認識しています。ただ、大規模なプロジェクトになりますと、額も大きくなりますので、様々な機関で検討をしていかななくてはいけないという側面があります。しかし政府としてもこの問題については検討しておりまして、つい最近も政府レベルの会合で取り上げられ、書類審査の短縮の必要性という問題についての協議を行いました。

私どもの方から考えていることとしては、F/S 段階で様々な問題をきちんと解明して外国の皆様がプロジェクトに実際に移行していくときに、解明されていない問題ができるだけ少なくなるような措置をとることは必要だと思っています。その一環として私が提案していることですが、ワーキング・グループを作って、どの会社にもどのプロジェクトに参加していただくのが一番効果的かということを事前にコーディネートするということを考えています。どの日本企業も大変優秀でいらっしゃると思いますが、どの会社がどの分野に強いのかということを私達が事前にきちんと承知することによって、プロジェクトに参加していただく事前の段階でのコーディネートも可能になると考えています。

国際標準、そして国際規格への移行という点について申し上げますと、その方向での歩みはすでに生じています。例えば金融機関ですが、会計報告を国際標準にするというシステムにすでに移行していますし、石油・ガス分野につきましても国際標準に沿った会計報告をするという形になっています。そういう意味で移行のプロセスは生じているというふうにご理解いただけたと思います。

＜閉会挨拶＞

ホジャムハメドフ会長 閉会挨拶

今日は本当に充実した実りある議論が出来たと思います。第 10 回合同会議は大変すばらしい会議だったと感じています。共同議長をしてくださいました小林会長には、大変優れた采配で議事進行をしてくださいましたことに感謝いたします。そして日本側の皆様方、トルクメニスタン代表団メンバーの皆さん、そしてすべての合同会議参加者の皆様方に、時間を作り、こうして参加して下さったことに心からお礼を申し上げたいと思います。

先ほど来申し上げておりますように、トルクメニスタン政府と致しましても、また大統領自身もトルクメニスタンと日本の今後の協力関係発展ということを非常に重要視しております。ですから日本の企業の皆様方にも、トルクメニスタンの省庁、また国家コンツェルン代表の人たちにも、両国の関係をさらに深い、統合された連携の強いものになっていくよう、今後も努力を重ねてくださいますようお願いをしたいと思います。

そして両国関係の深化のために、両国関係が新しいレベルの関係になっていくために、共に努力をしていきたいと思います。今回の会議にご参加のすべての皆様方とご家族のご健康とご多幸、そして、日本国民と国家の繁栄を心からお祈り申し上げたいと思います。ありがとうございました。

小林会長 閉会挨拶

尊敬するホジャムハメドフ副首相閣下、トルクメニスタン代表団の皆様ならびにご列席の皆様。

本日は多数の皆様のご列席を賜りまして誠にありがとうございました。お陰様で今副首相閣下もおっしゃたように非常に短時間ではありましたが実りのある会議ができたと思います。日本トルクメニスタン経済委員会会長と致しまして、重ねてご列席の皆様に心より感謝を申し上げたいと思います。

特に先ほど申し上げましたが、ホジャムハメドフ副首相閣下の方から極めて多岐にわたるご意見やご要望を頂きました。先ほどお約束いたしましたように関係各位とも相談しながらきちんとフォローし、ご連絡をする予定にしております。次回、第 11 回経済合同委員会に関しましてはたぶんアシガバード、トルクメニスタンで開催されると思いますが、日付等につきましてはまた準備を進めさせていただくといたしまして、それまでに今回いろいろと議論いたしましたものについて、あるいは現在の進行中のプロジェクトについてできるだけスピードを持って成果を上げるような形で取り組んで、さらにいい合同会議が出来るようにしていきたいと思います。

先ほど副首相閣下もおっしゃいましたように、日本とトルクメニスタンの関係を更に伸長していくためにも私共民間企業は経済面で頑張っていきますが、先ほどお話がございましたように今年末の大統領の来日が成功裏に実現するとすれば非常に大きなステップとなるとと思いますので、改めまして心より歓迎を申し上げます。

本日の合同会議につきましてこれから署名式に移りますけれども、両国関係のさらなる発展を祈念しつつ、第 10 回経済合同会議の閉会のご挨拶とさせていただきます。本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。特にホジャムハメドフ副首相閣下をはじめ、トルクメニスタンの代表団の皆様には今朝お着きになってそしてミーティングをさせていただいて、チャーター便で今晚お帰りだという極めてトンボ帰りの慌ただしい中で大変ご苦勞でございました。気をつけてお帰りいただきたいと思います。ありがとうございました。